マルコの福音書 12:35-44　弟子になるとは
マルコの福音書はイエスに従うことについて書かれた書です。初めから終わりまで、マルコはイエスに従うということは何を意味するのかを様々な例を通して示しています。そしてイエスの生涯における最後の日々について語られる、この書の終わりに近づいてもなお、イエスに従うとは、本当に弟子になるとはどういうことかについて私たちに問い続けます。この個所は、最後にイエスが公に教えられた言葉から、十二使徒のみに語られた言葉へと移る箇所です。イエスは彼らに、そして私たちに、真の弟子とは何であるかを理解してほしいと心から願われるのです。マルコの福音書 12:35-44 を見ますと、それは最高法院との対立と同じ日に起こった、引き続き宮の中での出来事でありました。イスラエルの政治的、宗教的指導者たちであった最高法院を構成する３つのグループの人々との対話が終わったところでしたね。イエスが答えた最後に投げかけられた質問は、律法学者の一人からのものでした。イエスは宮で律法学者たちの教えに触れながら公に教え続けられましたが、実際には次々とご自分に対立してきた宗教指導者たちに対して語られました。イエスはまず、ご自分の周りに集まってこれまでのやり取りを聞いていた人々に質問を投げかけられました。注釈者の一人であるラルフ・マーティンはこれについてこう言っています。「一日の質疑応答の後に、本日の質問がやってくる」

質問とそれに対する答えの中で、真の弟子となるためにはイエスが誰なのかを知らなくてはならないことを示されている、マルコの福音書 12:35 から見ていきましょう。「イエスは宮で教えていたとき、こう言われた。「どうして律法学者たちは、キリストをダビデの子だと言うのですか。 36 ダビデ自身が、聖霊によって、こう言っています。『主は、私の主に言われた。「あなたは、わたしの右の座に着いていなさい。わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまで。」』 37 ダビデ自身がキリストを主と呼んでいるのに、どうしてキリストがダビデの子なのでしょう。」大勢の群衆が、イエスの言われることを喜んで聞いていた。」まず、大勢がイエスの話に耳を傾けていることに注目してください。37 節の最後には大勢の群衆とあります。つまり、これがイエスの話を聞いていたすべての人に向けられていたことで、今日の私たちにも向けられたものであるということです。ですが、それの何が重要であるかを理解するには、当時のユダヤ人のことを今一度理解する必要があります。ご存じか分かりませんが、キリストとはギリシャ語でメシアのことで、イエスの名前ではありません。メシアとは、旧約聖書でイスラエルを解放するために来ると預言されたいた「油注がれた者」を意味するヘブライ語です。もちろん、イエスが解放されるのはイスラエルだけでなく全世界に及ぶわけですが、私たちが旧約聖書として知っているヘブライ語の聖典を、ほとんどのユダヤ人がそのように読んだわけではありません。ユダヤの律法学者やその他の宗教指導者たちは、この「油注がれた者」の到来に関する多くの預言を正しく認識し、旧約聖書の中でメシアを指し示す非常に多くの聖句を特定していました。そのような聖句の一つが詩篇 110 篇で、イエスご自身が質問したことへの答えとして、それを引用されています。イエスが実際に引用された最初の節だけではなく、4 節までを読んでみたいと思います。「1 主は 私の主に言われた。「あなたは わたしの右の座に着いていなさい。わたしがあなたの敵を あなたの足台とするまで。」 2 主はあなたの力の杖を シオンから伸ばされる。「あなたの敵のただ中で治めよ」と。 3 あなたの民は あなたの戦いの日に喜んで仕える。聖なる威光をまとって 夜明け前から。あなたの若さは朝露のようだ。 4 主は誓われた。思い直されることはない。「あなたは メルキゼデクの例に倣い とこしえに祭司である。」」律法学者たちは何百年もの間、この詩篇をメシアに関する詩篇として正しく解釈していました。この詩篇とその他の多くの聖句に基づいて、メシアはこの詩篇の筆者であるダビデの血筋から生まれると言っていました。メシアは王であり、ある意味司祭でもあるということが、イエス・キリストの内に成就されるのを私たちも認めることができます。では、なぜ律法学者をはじめ最高法院はイエスをメシアとして認めなかったのでしょうか。「どうして律法学者たちは、キリストをダビデの子だと言うのですか。」というイエスの問いかけの核心がそこにあります。律法学者たちの教えは正しいものでしたが、イエスが最高法院からの最後の質問に対して言われたことを思い出してください。マルコ 12:34 で、イエスは「あなたは神の国から遠くない。」と言われました。全ての律法学者たちは、イエスをメシアとして完全に理解し、完全に受け入れるところまであと少しでし

た。しかし、彼らが見ていたのは人であり、ダビデの子孫でしかなかったために見逃してしまいました。イエスは確かにそのようなお方でしたが、それ以上の方でした。詩篇 110 篇が記された当時の背景において、ダビデは神が王としての自分に与えてくださったことについて語り、主（ヤーウェ、神を示す名前）は 私の主（英語では小文字で示される支配者や王を一般的に表す言葉）に言われた。と言っています。ですから神は王ダビデに「あなたは わたしの右の座に着いていなさい。」と言われたことになります。神はダビデに敵への勝利を約束されました。ですが、律法学者たちは何百年もの間、この聖句の 2 つ目の「主」はダビデにも当てはまるものの、預言的には永遠の祭司である来るべきメシアにも当てはまるということを正しく見抜いていました。37 節では「ダビデ自身がキリストを主と呼んでいるのに、どうしてキリストがダビデの子なのでしょう。」と言っています。イエスは主がメシアを意味するという彼らの解釈が正しいと仰いましたが、それは、ダビデがメシアは自分よりもはるかに偉大で、詩篇の残りの部分からメシアのことを永遠に存在すると見ていたことを意味します。ですから、メシアは普通の人間以上の存在でなくてはなりませんでした。

それが宗教指導者たちの問題の核心でありました。彼らはダビデの子として来られた、ダビデの血筋である人間のメシアであったなら喜んで受け入れたことでしょう。しかし、ダビデの子であってもご自分を神の御子であると宣言したイエスを受け入れようとはしませんでした。思い出してください。マルコの福音書のすべてが十字架刑の際に百人隊長がマルコ 15:39 で「この方は本当に神の子であった。」と語った言葉につながっているのです。今日、世界中で、クリスチャン的、あるいはアメリカでは新たに文化的クリスチャンと呼ばれる、イエスを御子なる神として受け入れない人たちが大勢います。そのような人たちのほとんどが、このすぐ次の箇所でイエスが貧しいやもめの犠牲を称賛している場面でのイエスの教えについて、少なくとも部分的には納得します。ですが、自分たちが認める形でキリスト教的な道徳を教えるためにイエスを利用するものの、イエスご自身がどなたであるか、つまり肉体を持った神であるという主張を拒むのです。ですから、律法学者と同じく、ダビデの子孫を求めますが、神の子を求めることはありません。片方なしに、もう一方を得ることができないにも関わらずです。

ですが、イエスの弟子となるためには、イエスが誰であるかを知り、受け入れなければいけないと同時に、**イエスに従うとはどういうことかを知らなくてはなりません。**イエスが引き続き人々を教え、その後弟子たちに向かって続けて教えられるとき、弟子になるとは謙遜と犠牲を意味することを明確に示されています。まず、38 節以降、謙遜に生きるように警告されています。「38 イエスはその教えの中でこう言われた。「律法学者たちに気をつけなさい。彼らが願うのは、長い衣を着て歩き回ること、広場であいさつされること、 39 会堂で上席に、宴会で上座に座ることです。 40 また、やもめたちの家を食い尽くし、見栄を張って長く祈ります。こういう人たちは、より厳しい罰を受けます。」」再び、最高法院や宗教指導者たち全体を指して、律法学者を挙げて語られています。彼らは社会における権威ある地位にしがみついていました。人々から挨拶をされる対象であること、人々が一目置く特別な衣服をまとうことを好みました。それは、今日でもいくつかの宗派で聖職者がつけている襟のように、社会における特定の地位につく特別な聖職者を区別するためのものだったのかも知れません。そのような宗教指導者たちは、どのような祝典においても常に前に立ち、中心的な存在でありました。ですが、彼らがその地位を誇らしげにしていることを述べた後、彼らがその高い地位を何のために用いているかについて、イエスは明確に非難されています。彼らは「やもめたちの家を食い尽くし」ていました。自分たちが仕える人々の中で最も低い所にいる人々のことなど気にもかけず、むしろそのような人々を金銭的に利用していました。そのような例は今日でもたくさんあります。亡くなった愛する人たちの死後の世界について安心感を得られるようにと、悲しむ家族らに多くのお布施を納めるよう勧める仏教の僧侶たちや寺を見てください。ですが、欲の働きの例を見るために偽りの宗教に目を向けるまでもありません。教会堂の改築のために捧げていただきたいですし、私たち家族が教会から頂いている給料で生活をできていることにも感謝をしています。ですが、多くの信仰による癒しを約束する人々が信じさせようとするように、教会にもっと献金したとしても、神から恩

恵を得たり、癒しの恵み得られる訳ではありません。捧げることが信仰につながるとも、神によって繁栄を与えられることにつながるとも、癒しを与えられるとも言われていません。「やもめたちの家を食い尽くし」た律法学者たちのように、弱い者たちの裏で大儲けする偽教師がいます。そのプライドは、社会的地位や自分の欲を満たすための宗教的な行為だけでなく、彼らが捧げる祈りにも見ることができました。霊的な行為でさえ、人々の注目を集め、自分たちのエゴを満たすためのものだったのです。このような指導者たちに、イエスは神の裁きを約束されます。

ですから、明らかに自己中心的なプライドではなく、謙遜が弟子を特徴づけるものです。けれど、謙遜とはどのようなものでしょうか。イエスは直後に弟子たちに向かって、実際に貧しいやもめを指して、真の謙遜がどのようなものかを示されました。41－44 節を見てください。「41 それから、イエスは献金箱の向かい側に座り、群衆がお金を献金箱へ投げ入れる様子を見ておられた。多くの金持ちがたくさん投げ入れていた。 42 そこに一人の貧しいやもめが来て、レプタ銅貨二枚を投げ入れた。それは一コドラントに当たる。 43 イエスは弟子たちを呼んで言われた。「まことに、あなたがたに言います。この貧しいやもめは、献金箱に投げ入れている人々の中で、だれよりも多くを投げ入れました。 44 皆はあり余る中から投げ入れたのに、この人は乏しい中から、持っているすべてを、生きる手立てのすべてを投げ入れたのですから。」」結果的にはそうすることになりましたが、このやもめを引き合いにだした第一の目的は、最高法院の偽善を示すことではありませんでした。彼女の行動によって、律法学者の自己中心的な偽善と比較して、本当の信仰と謙遜がどのようなものかを示すことができたものの、その礼拝における彼女の謙虚さをただ示すことが目的ではありませんでした。第一の目的は、弟子たちに弟子としての究極の模範を示すことでした。イエスが「弟子たちを呼ん」だことに注目してください。イエスが初めて弟子となる男たちに「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしてあげよう。」と呼びかけたマルコの福音書 1:17 から始まり、イエスは弟子たちに、弟子になるとはどのようなことかを教え続けて来られました。イスラエルの宗教指導者たちの中には、本当の弟子は見られませんでしたが、このやもめは自分の持てるすべてを捧げたことから、イエスの呼びかけに完ぺきに答えました。これが、マルコの福音書 8:35 でイエスが「35 自分のいのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしと福音のためにいのちを失う者は、それを救うのです。」と言われた、弟子になるための第一の呼びかけでした。では、弟子であることは、ただ多くのお金を捧げることなのでしょうか。そうではありません。ですが、イエス・キリストのために自分を、財産を、優先順位を完全に犠牲にすることに他なりません。使徒パウロはそれをローマ人への手紙 12:1-2 で次のように定義しています。「ですから、兄弟たち、私は神のあわれみによって、あなたがたに勧めます。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、聖なる生きたささげ物として献げなさい。それこそ、あなたがたにふさわしい礼拝です。 2 この世と調子を合わせてはいけません。むしろ、心を新たにすることで、自分を変えていただきなさい。そうすれば、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に喜ばれ、完全であるのかを見分けるようになります。」裕福な人々はたくさんの捧げものをしましたが、心の中では神に最低限を捧げていました。私たちの多くも、どれだけ捧げれば十分かを考え、捧げています。やもめは神にこれが全てですと捧げました。彼女にはもはや自分を支える信仰以外に残るものはありませんでした。そして、イエス・キリストがあらゆる必要を満たしてくださるという信頼と信仰を完全に得られるまで、私たちは弟子として十分ではないのです。全て所有物も、優先順位も、自分のすべてをキリストのために犠牲にするとはどういうことでしょうか。自分の能力を超えていると思えるほどまでに喜んで捧げることを意味するのでしょうか。そうかも知れません。日曜日に子どもたちを塾にやるのではなく、教会に連れてくるということでしょうか。そうかも知れません。自分のいるコミュニティーで、ある点では受け入れられるのではなく、拒絶されることを意味するのでしょうか。そうかも知れません。では、なぜそうするのでしょうか。なぜ、このやもめのようにへりくだり、犠牲を払うのでしょうか。それは、私たちが仕える救い主はダビデの子であるだけでなく、神の子であられるからです。人である私たちを理解してもなお、全能の神として私たちの必要を満たしてくださる方こそ、私たちが信頼する方なのです。祈りましょう。

Mark 12:35-44 Understanding Discipleship

Mark is a book about following Jesus. From beginning to end, Mark gives us examples of what it means to follow Jesus. And even as the book is drawing to an end here in the final days of Jesus's life, we continue to confronted with what it means to follow Jesus, to really be his disciple. This passage is the transition from his final words of public teaching to the place where the rest of his teaching is only given to his 12 disciples. **He wants them, and us to really understand what real discipleship is**. As we look at this passage in Mark 12:35-44, it is happening on the same day as the confrontation with the Sanhedrin and continues in the same location, the temple. Remember where the dialogue with the three groups from the Sanhedrin, who were the political and religious leaders of Israel, ended. The final question and response that Jesus gave was to one of the Scribes. So, as he now continues his public teaching there in the temple, he follows up by addressing what the scribes taught, but he is really addressing all the religious leaders that have confronted him one after the other. And Jesus begins by asking a question of his own to those who are gathered around and have been listening to his responses. One Commentator, Ralph Martin, has described it this way. "After a day of questions comes the question of the day."

Let's begin reading at verse 35 of Mark 12, where Jesus asks a question that shows in the answer that **to truly be a disciple, you have to know who Jesus is.** 35 And as Jesus taught in the temple, he said, "How can the scribes say that the Christ is the son of David? 36 David himself, in the Holy Spirit, declared, "'The Lord said to my Lord, "Sit at my right hand, until I put your enemies under your feet."' 37 David himself calls him Lord. So how is he his son?" And the great throng heard him gladly. First notice that there is a great crowd listening to him. The last phrase of verse 37 describes the listeners as a great throng. So this is directed towards everyone who can hear what Jesus is saying, and it is for us to hear today as well. But understanding what is important about this requires us to once again understand what the Jewish understanding of that time was. If you aren't aware, Christ is the Greek word for Messiah, not Jesus's name. Messiah is the Hebrew word meaning "anointed one" who the Old Testament prophesied would come to deliver Israel. Of course, his deliverance would be not just for Israel but for the whole world, but that is not how most Jews would have been reading the Hebrew Scripture that we know as the Old Testament. The Jewish scribes and other religious leaders rightfully recognized the many prophecies of this coming "anointed one" and identified the overwhelming number of passages in the Scriptures of the Old Testament that pointed to the Messiah. One of those was Psalm 110, which Jesus quotes from in answering his own question. But I want to read not just the first verse he quotes but through verse 4 of Psalm 110. The LORD says to my Lord: "Sit at my right hand, until I make your enemies your footstool." 2 The Lord sends forth from Zion your mighty scepter. Rule in the midst of your enemies! 3 Your people will offer themselves freely on the day of your power, in holy garments; from the womb of the morning, the dew of your youth will be yours. 4 The Lord has sworn and will not change his mind, "You are a priest forever after the order of Melchizedek." The Scribes had correctly interpreted that Psalm as a Messianic Psalm for hundreds of years. They had correctly said that based on this and many other Scriptures, Messiah would come from David's line, the writer of this particular Psalm. The Messiah would be a king and in some way a priest as well, and we see all this fulfilled in Jesus Christ. So why did the Scribes and the rest of the Sanhedrin for the most part reject Jesus as the Messiah? That is at the heart of the question Jesus is asking when he says, How can the scribes

say that the Christ is the son of David? They were correct in that teaching, but remember what Jesus has just finished saying to the Scribe who asked the final question from the Sanhedrin. He told him in verse 34 of Mark 12, "You are not far from the kingdom of God." The Scribe and all the Scribes were very close to a full understanding and fully accepting Jesus as the Messiah, but they missed it because all they saw was a Son or a descendent of David. Jesus was that, certainly, but he was so much more. Within the original context of Psalm 110, David is talking about God's provision for him as king when he says, The LORD (that's YAHWEH, the personal name for God) says to my Lord (lowercase, the regular word for a ruler and king). So God has said to David the king, "sit at my right hand, until I make your enemies your footstool." So, he promised David victory over his enemies. But the Scribes had correctly seen for hundreds of years that while the second "Lord" in that verse could apply to David, it prophetically applied to this coming Messiah, who is a priest forever. By saying in verse 37 that 37 David himself calls him Lord. So how is he his son?" Jesus was saying their interpretation of Lord meaning the Messiah was correct, but that means that David is saying the Messiah is far greater than himself, and eternal in existence when you look at the rest of that Psalm. So the Messiah has to be more than a regular human.

That is the core of the problem for the religious leaders. They would have been willing to accept a human Messiah from the line of David who came as a king and Son of David. But, they were not willing to accept Jesus, who came as a human Son of David but declared himself to be the Son of God. Remember, everything in Mark is pointing to the powerful declaration in Mark 15:39 by the centurion at the crucifixion, "Truly this man was the Son of God!" There are plenty of people around the world today, some who claim to in some sense be Christians, or cultural Christians, a new term from the United States, but who do not accept Jesus as God the Son. Most of those people would quickly affirm parts of what Jesus might be teaching in the very next part of this passage as he commends the sacrifice of a poor widow. But while they want to affirm and use Jesus to teach the morals of Christianity as they see them, they reject who Jesus himself claims to be – God in the flesh. So just like the Scribes, they want the Son of David, but not the Son of God. But you can't have one without the other.

But just as you have to know and accept who Jesus is to be his disciple, **you also have to know what it means to follow him**. And as Jesus continues to teach the people, then switch to his disciples, he gives a clear illustration that discipleship means humility and sacrifice. First we see his warning to live humbly starting in verse 38. 38 And in his teaching he said, "Beware of the scribes, who like to walk around in long robes and like greetings in the marketplaces 39 and have the best seats in the synagogues and the places of honor at feasts, 40 who devour widows' houses and for a pretense make long prayers. They will receive the greater condemnation." Again, he continues to use the Scribes as an example for the Sanhedrin and religious leaders as a whole. They liked their position of authority in society. They like the respectful greetings they received and distinctive clothes they wore that made people recognize them. Perhaps that was something like the clerical collar that some denominations continue to wear today that sets them apart as special religious professionals with a certain status in society. These religious leaders would always be front and center of any celebration. But after acknowledging their place in society that they relished in a prideful way, Jesus makes a clear accusation of what they used that exalted position for. They would "devour widows' houses." They did not care about the lowest of the people they served, but

rather would take advantage of them financially. There are plenty of examples of this even today. Look at how Buddhist priests and temples encourage larger offerings to give peace of mind about the afterlife of deceased loved ones for grieving family members. But we don't have to look at false religion to see examples of greed at work. I want you to give sacrificially to help reform our buildings, and I appreciate being able to take care of my family with the salary the church provides; but giving more to the church will not get you any more favor with God or any more of his healing grace like many faith healers want you to believe. We are never told that by giving, sowing into our faith, we will reap prosperity by God or healing by God. There are false teachers getting rich off those teachings on the backs of the the weak just like the Scribes who "devoured widows' houses." And that pride was seen in not just their position in society, their religious manipulation to feed their greed, but also their prayers they offered. Even their spiritual actions were for the purpose of people looking at them and feeding their ego. To these types of leaders, Jesus promises God's judgement.

So clearly egotistical pride cannot characterize the disciple, rather humility. But what does that look like? Jesus immediately turns to his disciples and shows them what humility and real godliness looks like by pointing out an actual poor widow. Look at the last paragraph of verses from 41-44. 41 And he sat down opposite the treasury and watched the people putting money into the offering box. Many rich people put in large sums. 42 And a poor widow came and put in two small copper coins, which make a penny. 43 And he called his disciples to him and said to them, "Truly, I say to you, this poor widow has put in more than all those who are contributing to the offering box. 44 For they all contributed out of their abundance, but she out of her poverty has put in everything she had, all she had to live on." The primary purpose of pointing out this widow was not to show the hypocrisy of the Sanhedrin, although it did that. It was not to simply point out her humble piety in this act of worship, although by her actions she did show what real piety and godliness looks like compared to the egotistical hypocrisy of the Scribes. The primary purpose was to highlight the ultimate model of discipleship to his disciples. Notice that he "called his disciples..." Starting in Mark 1:17, where Jesus first called out to the men who would become his disciples, 17 ... "Follow me, and I will make you become fishers of men.", Jesus has been teaching these disciples what the call to discipleship truly is. Real discipleship was not seen in any of the religious leaders in Isreal, but this widow demonstrated that call perfectly as she gave everything she had. This is the primary call to discipleship that Jesus explained in Mark 8:35, 35 For whoever would save his life will lose it, but whoever loses his life for my sake and the gospel's will save it. So, does discipleship come down to just giving more money? Not at all. But it does come down to a total sacrifice of one's self, of ones possessions, of one's priorities for Jesus Christ. The apostle Paul defined it as self-sacrifice in Romans 12:1-2 12 I appeal to you therefore, brothers, by the mercies of God, to present your bodies as a living sacrifice, holy and acceptable to God, which is your spiritual worship. 2 Do not be conformed to this world, but be transformed by the renewal of your mind, that by testing you may discern what is the will of God, what is good and acceptable and perfect. The wealthy dropped in a lot of money, but in their hearts, they gave God just enough. That's how most of us give and sacrifice...we ask how much is "enough?" The widow told God, here is everything! She was left with nothing but her faith to sustain her. And until we come to that place where our trust, our faith is completely in Jesus Christ to meet every need we have, we will fall short as a disciple. What does that look like to have everything, possessions, priorities, our whole

self sacrificed to Christ? Will that mean a willingness to give to a level we think is beyond what we are capable of? Probably. Will that mean that our kids are at church rather than in Juku on Sundays? Probably. Will that mean that we face rejection rather than acceptance in certain ways in our community? Probably. So why do it? Why humble ourselves to sacrifice in the way this widow did? Because we serve a Savior who is not only a Son of David, but is the Son of God himself. He is the one we are trusting in, who understands us as a human, but provides for us as the all-powerful God. Let's pray.